

**製品名: ラミン A/C ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21305**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:1000-1:4000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:74kD,63kD;Observed MW:74kD,63kD

**抗原情報**

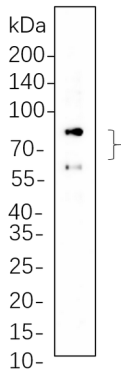
遺伝子名	LMNA LMN1
別名	Prelamin-A/C [Cleaved into: Lamin-A/C (70 kDa lamin) (Renal carcinoma antigen NY-REN-32)]
遺伝子 ID	4000.0
SwissProt ID	P02545
免疫原	ヒトラミン A/C の合成ペプチド

**背景**

細胞局在: 核。ラミン A/C (LMNA) ホモ・サピエンス 核ラミナは、内核膜に隣接するタンパク質の二次元マトリックスで構成されています。ラミンファミリーのタンパク質がこのマトリックスを構成し、進化の過程で高度に保存されています。有糸分裂中、ラミンタンパク質がリン酸化されると、ラミナマトリックスは可逆的に分解されます。ラミンタンパク質は、核の安定性、クロマチン構造、および遺伝子発現に関与していると考えられています。脊椎動物のラミンは、A型とB型の2種類で構成されています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。この遺伝子の変異は、エメリー・ドレイファス型筋ジストロフィー、家族性部分的リポジストロフィー、肢帯型筋ジストロフィー、拡張型心筋症、シャルコー・マリー・トゥース病、ハッチンソン・ギルフォード早老症候群など、いくつかの疾患を引き起こします。 [RefSeq 提供、2012年4月]

## 研究分野

## 画像データ



HaCat細胞ライセートを4~20% SDS-PAGEで分離し、膜をラミン A/C ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でブロットニングした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。